

## 生育は平年並み！今後の気象と生育の推移に十分注意！

平成 15 年 6 月 2 日  
やまがたこだわり安心米推進運動本部

### 1 生育概況

移植後の天候は、気温は平年並みから高く、日照時間は平年並みから多く推移したため、活着は順調であった。分げつの発生が始まっており、初期分げつはほぼ平年並みに確保されている。一方、移植後の乾燥した風や土壌還元により、葉先が黄化しているほ場がみられる。5月30日の農業普及課や農業試験場の生育調査によれば、平坦部の「はえぬき」では、草丈は平年より長く、茎数は平年並み、葉数は平年並みである。土壌中アンモニウム態窒素量は、山形農試と庄内支場では平年並みからやや少ない。

### 2 当面の技術対策

本年の乾土効果は小さいと予想されているが、移植後の気温が平年並みから高く推移しており、現在の茎数はほぼ平年並みとなっている。5月30日発表の1か月予報によれば、向こう1か月間の気温は平年並みが高く、降水量は平年並みが多く、日照時間は平年並みと予報されており、茎数が過剰になる心配があることから、品質と食味の高い米を生産するために、適正な $m^2$ 当たりもみ数の確保をめざして以下の点を中心に管理を行う。

#### (1) 水管理による茎数の確保と根の健全化

分げつの発生を促進するため、2～3cm程度の浅水にして水温を高める。また、低温時には深水にして稲体を保護する。土壌還元が進んでいるほ場では、水交換や一時的な落水管理（田干し）によって土壌の還元化を軽減する。なお、土壌中の窒素は十分にあることから、計画外の追肥は行わない。

#### (2) 雑草防除

除草剤は適期を逃さず県農作物除草剤使用基準に基づいて適正に使用する。  
中期除草剤は高温下で薬害が出やすいので、種類と使用条件に注意する。

#### (3) 病虫害防除

斑点米カメムシの発生や増殖に好適な気象が続いていることから、生息密度低減のため畦畔や農道等の除草対策を徹底する。また、補植用苗の取り残しは葉いもちの発生源となるため、補植が済んだらすみやかに補植苗をほ場から除去する。

#### (4) 直播栽培

播種後の気温が平年並みから高く推移し、播種後の落水管理を徹底したことにより順調に出芽し、適正な苗立ち数が得られた。今後は苗立ち数に応じた適切な管理を行う。

直播栽培は移植栽培に比較して雑草が残りやすいので、雑草の生育にあわせて基準に基づいて正しく除草剤を散布する。

表 5 葉期の対応

5 葉期茎数 / $m^2$	追肥対応 N成分 $kg/10a$	その他対応
240本未満	2.0	浅水管理
240～300本	1.0～1.5	
300本以上	無施肥	深水管理